参考資料7

令和７年度大学入学者選抜実態調査の結果（概要）

≪調査結果　全体版≫

文部科学省ウェブサイト「先導的大学改革推進委託事業」に掲載しています。（令和８年３月２７日公表）
URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1418430.htm

≪概要≫　※ページは全体版の該当箇所

【試験問題の公表】

○　個別学力検査における**試験問題の公表状況について、**国立大学（96.3%）、公立大学（85.7%）、私立大学（92.8%）とも**約９割が全て又は一部を公表**している。《Ｐ６》

【選抜方法の実態】

○　選抜区分数別でみると、**一般選抜 45.0%、総合型選抜 27.9%、学校推薦型選抜 27.1%**となっている。《P27》

○　学校推薦型選抜の種類を入学者数別でみると、**公募型が国立大学 98.4%、公立大学 90.3%、私立大学 23.1%**である。《P31》

【大学入学共通テスト（以下、「共通テスト」）の利用の実態】

○　一般選抜において**共通テストを利用して合否判定する選抜区分は、国立大学 92.0%、公立大学 88.9%、私立大学 42.7%**である。《P44》

○　共通テストを利用して合否判定する場合、一般選抜においては、**国立大学は８科目の利用、公立大学は３・５・８科目の利用、私立大学は２・３科目の利用**が多い。《P47》

【個別選抜の実態】

○　共通テストを利用していると回答した選抜区分のうち、更に**個別学力検査（※1）を実施しているのは、一般選抜 69.8%、総合型選抜 5.9%、学校推薦型選抜 1.7%**である。《P57》

○　一般選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、**英語（必須＋選択 86.5%）、数学（同 76.2%）、国語（同 69.5%）を出題**する選抜区分が多い。《P62》

【英語資格・検定試験の活用の実態】

○　英語の資格・検定試験の活用がある選抜区分は、一般選抜(28.7%)、総合型選抜(29.0%)、学校推薦型選抜(27.5%)である。《P113》

○　一般選抜における活用方法としては、国立大学では共通テストに換算（免除なし）が 73.4%、公立大学では出願資格が 37.5%、私立大学では個別学力検査に換算（免除あり）が 31.9%で最も多い。《P129》

【記述式問題等の出題の実態】

○　一般選抜における個別学力検査において、**記述式問題を出題している選抜区分の割合は、国立大学は全体の 99.9%、公立大学は 98.1%、私立大学は 35.0%**である。《P140》

○　一般選抜における個別学力検査において、記述式問題（短答式・穴埋め式を除く）が出題された選抜区分に係る入学者数は、国立大学 68,123 人（98.7%）、公立大学 15,848 人（97.9%）、私立大学 86,285 人（56.9%）である。《P155》

※1　本調査における「個別学力検査」は、学習指導要領に定められている教科・科目の学力検査、「総合問題」としている。「小論文」、「面接」、「討論」及び「実技検査」等は含まない。